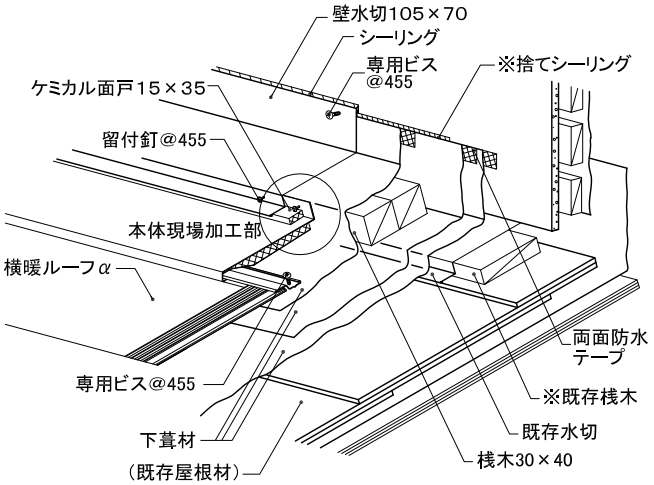
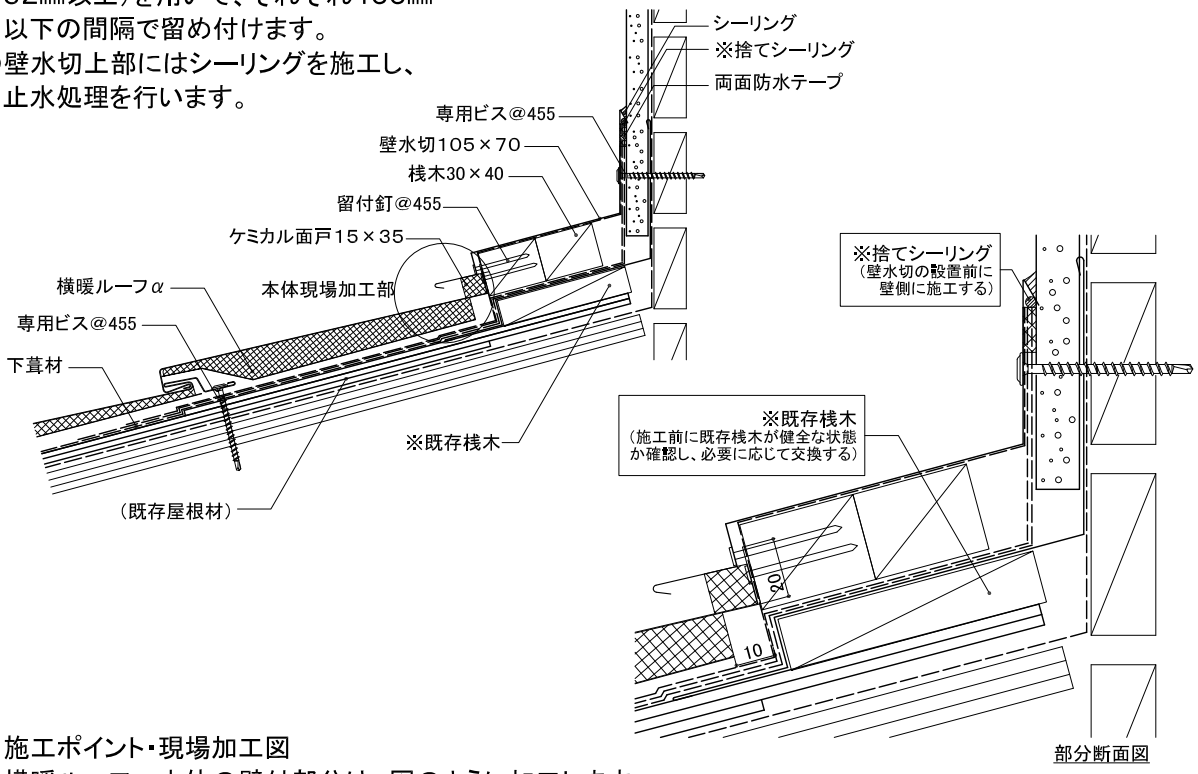
横暖ルーフα	工法	既存屋根材
	重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

10）下屋根部
（既存水切を残す場合）

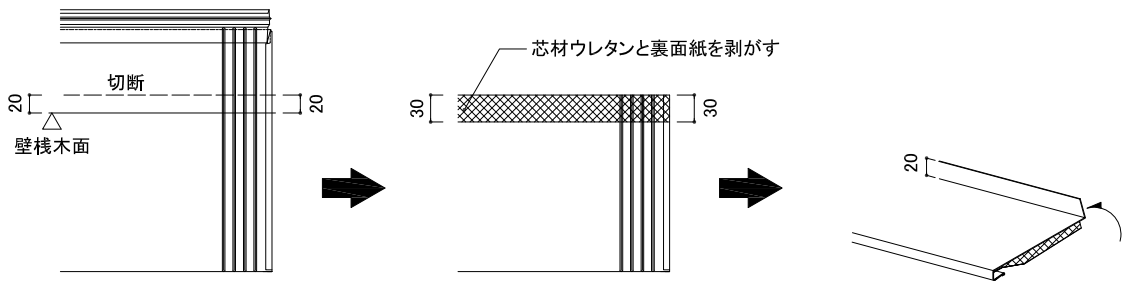
②棟側　壁水切105×70

●既存桟木が健全な状態であるか事前に確認してください。
●既存屋根材に、下葺材を張ります。
（下葺材の壁止まり部は必ず既存壁まで立ち上げ、両面防水テープで留めます。壁水切105×70取り付け前に捨てシーリングを施工します。）
●桟木30㎜×40㎜を取り付けます。
●図のように壁取り合い部を現場加工した横暖ルーフα本体を施工します。
●ケミカル面戸15×35を図のように貼り付け、壁水切105×70をかぶせるように施工します。既存壁には専用ビス（ステンレスドリルビスφ4．4㎜×55㎜）、桟木には留付釘（ステンレススクリュー釘長さ32㎜以上）を用いて、それぞれ455㎜以下の間隔で留め付けます。
●壁水切上部にはシーリングを施工し、止水処理を行います。





■施工ポイント・現場加工図
●横暖ルーフα本体の壁付部分は、図のように加工します。



①壁桟木面から図の寸法で切断します。
②端部から30㎜の位置まで芯材ウレタンと裏面紙を剥がします。
③端部から20㎜の位置を折り曲げて立ち上げます。